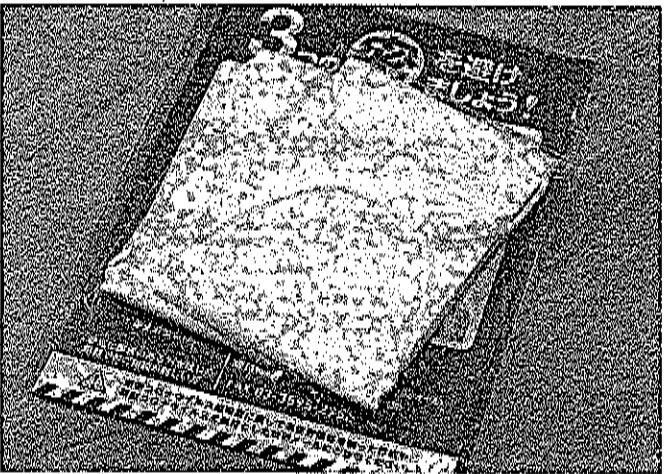


単価、1枚150円も



多額の税金が費やされたアベノマスク

新型コロナウイルス対策で安倍晋三政権が企画導入した配った布マスク「アベノマスク」について、国に情報開示を求める裁判で勝訴した神戸学院大学の上脇博之教授が24日、厚生労働省と文部科学省が開示した調達業者との単価や発注枚数を明らかにしました。

安倍政権は新型コロナウイルスが急拡大した2020年3月から

6月にかけ、17社と計32件の契約を結びました。西田の記者会見で

上脇教授が公表した会計検査院の決算検査報告(20年度)によると、

政府はアベノマスクを

3ヶ月間に約3億1,8

00万枚発注し、約1

43億5,000万円支

出していました。

全ての契約が競争入札ではなく随意契約で

決まりました。一枚あたりの調達単価(総括き)も最低62・6円から最高1,510円まで約2・4倍の差がありました。

医療品マスク一箱

和」とは單価300円

で契約したのち、13

5日を経過してしまし

た。発注理由を記した文書は残っておらず、当初に不適正な契約が結ばれた疑いがあります。

主な発注先は、興和、伊藤忠商事、マツオカコーポレーションの3社でした。

上脇教授は、「政府が配布した布マスクを使

用している人の割合は

3・5%だった」とす

る民間の調査結果を示

し、使用率で計算した

1枚あたりの事業費は

4,688円・3円

調達費は3,094円・5円だ

と指摘。「(使用率が)

3・5%だと)1~20

万枚を発注すれば十分

だった」との見解を示

しています。

上脇教授は、「国は業者に足元を見られ、ほ

うかと心配で契

約していたのではないか」と述べています。

上脇教授が国の資料公表

アベノマスク3億1800万枚

これまでに国は業者名や業者との契約額を明らかにする一方、単価や発注枚数は公表しないませんでした。上脇教授の訴えに大阪地裁は2月28日、国が不開示としたのは不適とする判断を下し、情報を開示するよう命令。国側は控訴せず、判決が確定しました。

アベノマスクをめぐっては、保管や再配布でも多額の国費が支出され、多くの国民から「税金の無駄づかい」と批判の声が上がりました。上脇教授は、「このようないくつかの支出、しかも緊急調達として随意契約になつてゐるものについては、国民が政策の是非や多額の税金の使途について検証ができないからしておかなければならぬ」とし、業者選定の契約交渉の経過を記した文書の開示を求める訴訟も起つてきました。